

令和3年度 学校図書館活用実践報告

1 南浜小学校の実態と課題

(1) 児童一人当たりの年間貸出冊数

南浜小学校	119.9冊
新潟市	117.4冊

市の平均を上回っている。

(2) 図書館活用状況・児童の実態と今年度の取り組みの方針

①読書センター

○ほぼ全学年が週1時間の図書館割り当て時間を活用している。

△学年が上がるにつれ、読書の量や質の個人差が大きい。また、読む本に偏りが見られる児童もいる。

⇒児童が様々な本と親しみ、学年相応の読書体験ができるような手立てを実施する。

②学習センター

○小規模校であるため、学習で活用する資料が数としては十分にある。

△公共図書館の資料を借りなくても資料が数としては足りるため、より学習に適した図書資料を公共図書館から借りることが少なかった。

⇒担任が計画的に図書資料を活用できるような仕組みをつくり、公共図書も活用し、学習の充実につながる資料提供をする。

③情報センター

△図書館に、調べ学習に活用できる掲示等がなく、環境を整える必要があった。

△新聞（新潟日報の「ふむふむ」）を読めるコーナーはあるが、ほとんど見ている児童がいない。

⇒児童が調べ学習の参考にできるような掲示、新聞に興味をもてるようなコーナーを設置する。

2 今年度行った取り組み

(1) 読書センターとしての機能の充実

児童が様々な本と親しみ、学年相応の読書体験ができるような手立てを実施する。

①「この本 読んでみよう！」コーナーの設置

児童が様々な本を読み、学年相応の読書体験が少しでもできるよう図書館内に学年の「この本 読んでみよう！」コーナーを設置した。昨年度末から、図書館司書が選書を行い、4月からスタートできるよう準備した。選書にあたっては、読書が苦手な児童も少なくないという実態に合わせ、中学年以上は一つ下の学年向けの本を中心に取り入れた。また、幅広い読書体験ができるよう様々なジャンルを入れるようにし、各学年20冊とした。

本を借りるときは、通常貸し出しの3冊の内1冊を「この本 読んでみよう！」コーナーから借りることとし、全児童が取り組めるようにしたことで、自分では選ばない本を読むことや学年相応の本に親しむ機会をつくることができた。また、取り組みに対する職員のアンケートから、「本を選べない児童の助けになっている。」という回答もあった。



②はかせ号

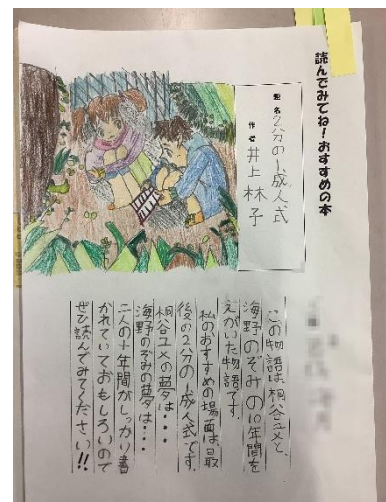
全44シリーズを読破し、様々な読書体験とともに、一つのシリーズを読み切り、深めようという取り組みである。興味をもった児童が取り組んでおり、すべてのシリーズを読破すると、図書館に名前が掲示される。

③読書週間

今年度は、以下のことを実施した。

- ・児童のおすすめの本紹介カード掲示
- ・先生方のおすすめの本紹介コーナー
- ・こんぺいとうさんによる「お話を楽しむ会」（読み聞かせ）
- ・図書委員会によるイベント「絵本ビンゴ」「分類ビンゴ」
- ・期間中の朝読書

この他にも、読書週間後に図書委員会で準備し、おすすめの本を読み合うことができるよう各学年に「児童のおすすめの本」を貸し出した。「おすすめの本紹介カード」とともにおすすめの本を教室内に置くことで、朝読書等で気軽に手に取って読むことができるようにした。「ただ掲示してある以上に、友達が選んだ本に興味をもって読んでいる。」という様子を担任から聞くことができた。



④南浜中学校の「しおりコンテスト」に参加（中学校区での連携としての取り組み）

南浜中学校で行われた「しおりコンテスト」に、「小学生もぜひ、参加しませんか。」とお誘いいただき、中学生が作成したしおりに投票しようというイベントを図書委員会主導で開催した。

期間中、多くの児童が投票し、たくさんのすてきなしおりを目にすることで、読書を身近に感じたり、中学生へのあこがれを感じたりするよいイベントとなった。



⑤図書委員会による読み聞かせ

iPad が導入されたことをきっかけに、今年度は、iPad で挿絵をテレビに映し、読み聞かせをする方法をとった。iPad を操作する人と読み聞かせをする人で分担することで、児童にとっても読み聞かせがしやすく、見ている人にも大きな挿絵を見ることができ、よい方法だった。



⑥読み聞かせグループ「こんぺいとう」による読み聞かせ

朝読書の時間に、隔週で「こんぺいとう」の皆さんから、読み聞かせに来ていただいている。学年や季節にあった本、多様なジャンルの本を読み聞かせてくださり、児童が様々な本と親しむ場をつくっていただいている。

(2) 学習センターとしての機能の充実

担任が計画的に図書資料を活用できるような仕組みをつくり、公共図書館も活用し、学習の充実につながる資料提供をする。

①国語の教師用指導書（朱刷り）の目次に印をつける。

指導書の目次に、図書館を活用すると思われる単元や図書資料を活用すると学習が深まるとと思われる単元に印を付け、担任が見通しをもって図書館を活用することができるようにした。

②「学校図書館活用計画」の作成

図書館活用推進の取り組みに関して、中学校区の学校で取り組みを紹介し合い、連携について相談していく中で、太夫浜小学校から「学校図書館活用計画」を作成していることを教えていただいた。よい取り組みであったため、資料をいただき、当校でも作成することにした。作成は、年間指導計画等を参考に各学年の担任が行った。

この「学校図書館活用計画」があることで、担任が見通しをもって、どの教科の学習においても図書館司書に相談する等、図書館を有効に活用するための準備を進めることができた。

また、図書館司書も、いつ・どのような学習で・どのような図書資料を・何冊用意してほしいという要望なのかを余裕をもって知ることができ、担任に声を掛けて、詳しく要望を聞くことができた。それにより、昨年度より大幅に学校図書館、公共図書館の図書資料を活用し、学習の充実につなげることができた。

令和3年度 学校図書館活用計画（2学期）		※情報センター（情報収集・選択・活用が含まれる学習）としての活用は、教科に○（例）◎総合					
月	内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
十月	教科 専売 希望の本 冊数		◎生活「おおきくそだてたいこん」 大根のそだてかたの本 2～3冊	国語「ちいちゃんのかげおくり」 教科書に掲載の本 3冊	◎総合「いろいろなんたちとちかあわらう」 福祉に関する本 一人1冊程度		
十一月	教科 専売 希望の本 冊数		国語「お手紙」 かえるくんシリーズ 4冊				◎総合「まき方を考える」 読書の本 ※本日は11月に必要一人1冊程度
十二月	教科 専売 希望の本 冊数	◎国語「じどう車をつくる」 下巻P34、指導書P97の本 1冊	生活「おもちゃ作りの本」 おもちゃ作りの本 10冊以上	国語「食べ物のひみつを教えます」 食べ物について書かれた本 一人1冊程度	◎国語「伝統工芸のよさを伝えよう」 日本の伝統文化に関する本 一人1冊程度	◎国語「グラフや表を用いて書こう」 統計資料に関する本 5冊程度	◎国語「日本文化を発見しよう」 日本文化の本 一人2冊程度
一月	教科 専売 希望の本 冊数	国語「むかしばなしをよもう」 下巻P42、43の本 6冊	生活「サツマイモパーティー」 サツマイモ料理、やさいの本 2～3冊	◎国語「ことわざ・故事成語」 ことわざに関する本・辞典 一人1冊程度	◎社会「食から今へと続くまじり」 食生活に関する本 一人1冊程度		◎理科「火山の噴火と地震」 火山・地震に関する本 一人2冊程度
二月	教科 専売 希望の本 冊数	国語「こえに出してよもう」 指導書P193の本 7冊	国語「わたしはおねえさん」 70ページの本 4冊	国語「三年とうげ」 まぐから送れる長話や童話 一人1冊程度			
三月	教科 専売 希望の本 冊数						
四月	教科 専売 希望の本 冊数		◎国語「本でのしるべ方」 92ページの本と遊びの本 10冊	国語「ありの行列」 物探探み物の本 一人1冊程度	◎理科「冬の星」 星座に関する本 一人1冊程度	◎国語「方言と共通語」 新築の方言に関する本 5冊程度	◎家庭科「冬を越えるくたくく」 住まい方・着方・食べ物など 一人1冊程度
五月	教科 専売 希望の本 冊数						
六月	教科 専売 希望の本 冊数	◎国語「くらべてよもう」 希望の本、どうしたらあそびが楽しくなる本 学年で15冊程度	国語「スーホの白い馬」 128ページの本といろいろな星の童話 10冊	◎社会「かわる道具とくらし」 昔の道具に関する本 一人1冊程度	◎国語「もしものときにきこえよう」 災害に関する本 一人1冊程度	国語「この本おすめします」 児童が選んだ本 1人1冊	◎理科「人と環境」 環境に関する本 一人1冊程度

(3) 情報センターとしての機能の充実

児童が調べ学習の参考にできるような掲示、新聞に興味をもてるようなコーナーを設置する。

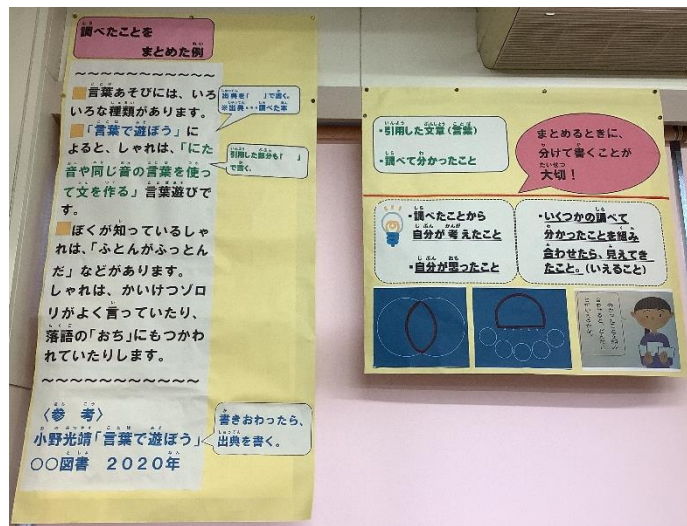
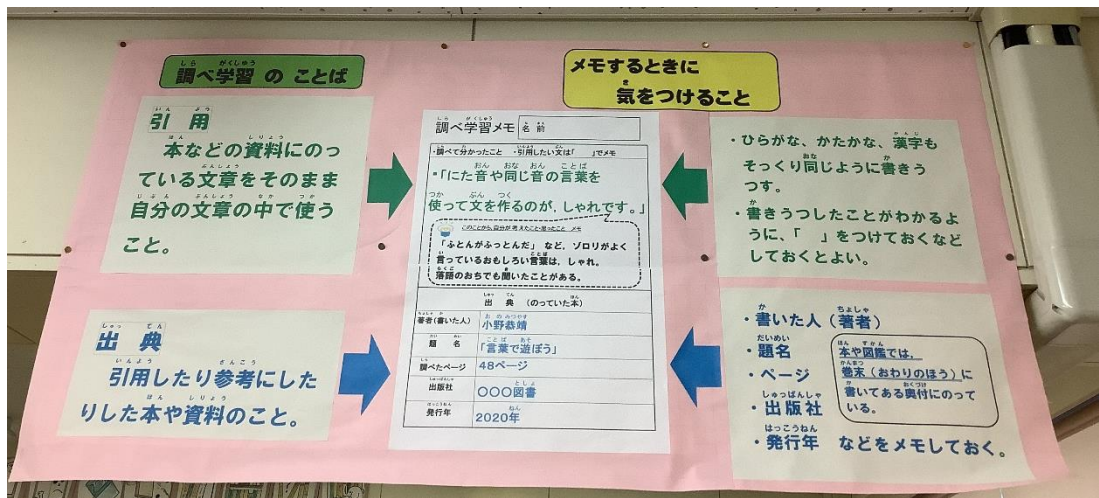
①引用・出典についての掲示

調べ学習についての指導項目である「引用」と「出典」について、児童がどのようなことか確認したり、メモの仕方やまとめた文章にどのように書き記すとよいか参考にしたりできるものを図書館内に掲示した。

また、掲示したカードと同じ書式の「調べ学習カード」も図書館内に設置し、授業等で活用できるようにした。

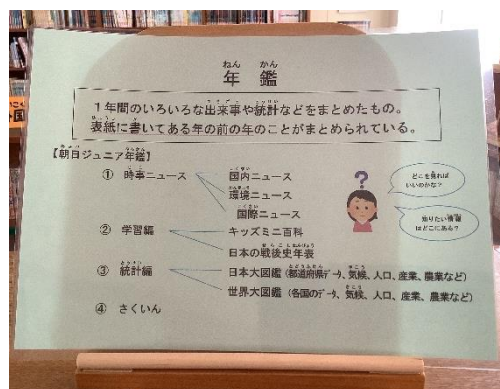
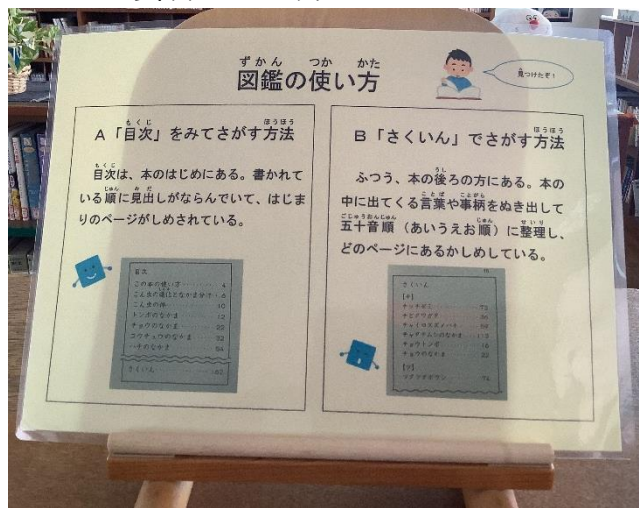
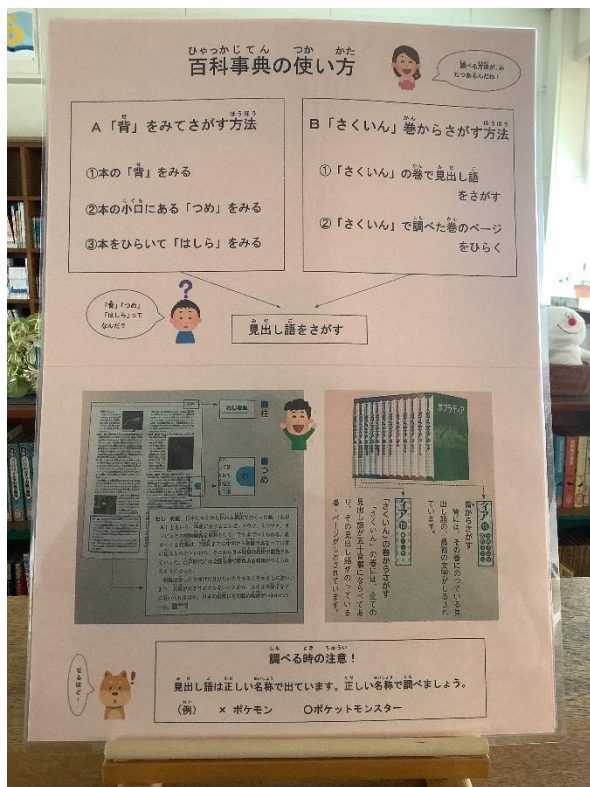
「引用」と「出典」について取り上げた理由は、「引用」は3年生から、「出典」は4年生から継続的に国語の教科書に取り上げられていて、児童が調べるときに意識してメモを残したり、まとめたものを書き記すことができたりするとよいと考えたからである。

また、当校の児童の学力テストの結果から、筆者の意見や考えと資料から分かることの区別がついていない児童が多いという傾向が見られた。このことから、自分が調べ学習をするときにも、「自分の意見や考え」と「資料を調べて分かったこと」を区別し、書き分けることができるとよいと考え、このような掲示物を作成した。



②百科事典の使い方・図鑑の使い方・年鑑についての掲示

百科事典と図鑑を使って調べるときの方法と年鑑の見方についての掲示物を作成し、掲示した。今までは、調べ方が分からない児童が、個別に図書館司書や担任に聞いていたが、自分で調べるときに参考にできる資料として掲示した。



①②の掲示物は、南浜中学校と太夫浜小学校にも本校の取り組みとして紹介すると、中学校区で共通して指導するとよいのではないかということになり、両校に同様の資料を提供し、掲示してもらった。よって、中学校区での連携の取り組みの一つとなった。

①②の掲示とも、夏休み明けから行ったため、今年度の学習で十分に活用してもらえなかった面があるが、担任が図書の時間に指導したり、学習で必要となる場面で指導したり、児童が自分で活用したりすることができた。

③ふむふむコーナーの設置

図書委員会が、「ふむふむ (新潟日報)」のコーナーを設置した。「ふむふむ」の記事に関連のある図書も一緒に展示し、児童の目をひくコーナーとなるよう工夫している。

足をとめて新聞を読む児童が増え、記事と関連のある図書を借りる児童の姿も見られた。

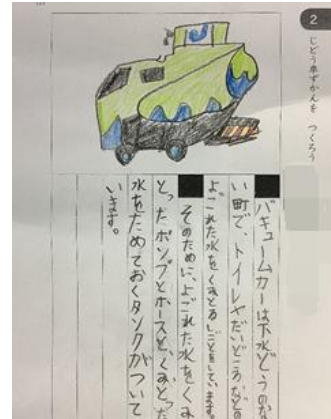


3 各学年の図書館活用実践

(1) 1年生 国語 単元名「じどう車ずかんをつくろう」

じどう車の仕事とつくりを紹介している文章であることを学習した後、紹介したい自動車を選んで個々にカードを書き、学級みんなで自動車図鑑を作った。

たくさんの本で調べることを通して、資料の構成の違いに気付き、「この本は仕事とつくりが分かりやすいよ。」等、児童同士で声を掛け合う姿も見られた。また、自分たちに必要な資料の見分け方も少しずつ分かってきた。資料から、自動車の仕事とつくりを読み取り、どの児童も意欲的にカード作りに取り組むことができた。



(2) 2年生 国語「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

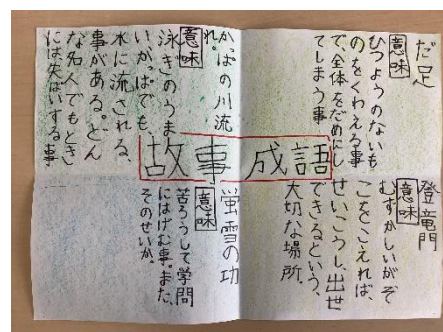
生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」

国語と生活科の合科として学習を進めていった。おもちゃの作り方を本で調べ、作り方の説明文を書くときは、iPadを使用し、作業している写真を撮ったり、作り方の説明をロイロノートのテキストに記入し、後で見返したりするためのメモとなるようにした。



(3) 3年生 国語「ことわざ・故事成語」

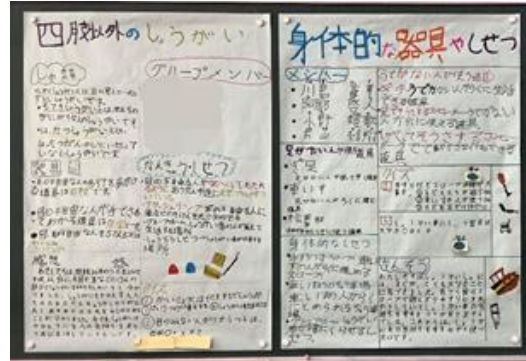
図書資料を使って、ことわざや故事成語を調べた。ことわざや故事成語の本を読み、たくさんの言葉を調べ、調べた言葉の中からいくつかを選んで用紙にまとめた。



(4) 4年生 総合「いろいろな人たちとかかわろう」

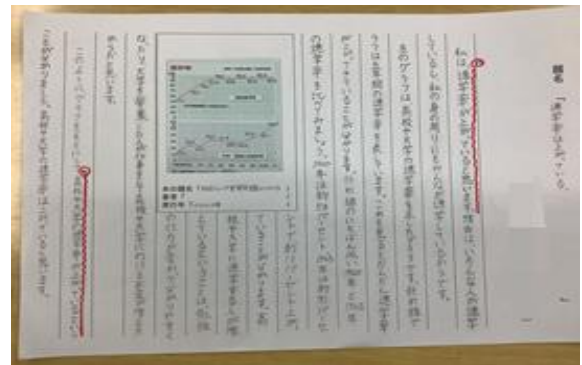
「ユニバーサルデザインとは何か」「自分はどうやって障がい者を支えるか」をテーマに、障がいの種類や特徴について知識を広げるとともに、障がいを抱える方を支える器具や環境、施設などについて本を活用して調べ学習を行った。

本の文章を引用する際、掲示物を参考にした。掲示物により、図書資料に記載されているデータや文章は変えずにそのまま使うこと、「」をつけることで引用部分が分かりやすくなるということを確認することができた。



(5) 5年生 国語 「グラフや表を用いて書こう」

自分の考えをまとめる際、説得力をもたせるために、資料（グラフや表）のデータを用いる学習をした。年鑑から資料を見つけ、調べ学習カードに出典を書いたり、気付いたことや考えたこと書いたりして、それをもとに文章にまとめた。



(6) 6年生 国語「日本文化を伝えよう」

日本文化について調べ、そのよさを読み手に伝わるように構成や絵、写真の見せ方を工夫して、パンフレットにまとめた。

調べ学習に入る前に、図書室の掲示物を見せながら引用の仕方や出典を明記することの指導を行った。また、合わせて国語教科書 P.152 「調べた情報の使い方」(①調べた情報を適切に用いよう (引用する・出典を示す) ②著作権を尊重しよう) を指導した。



(7) 調べ学習における図書資料とiPadの使い分け

各学年の担任に、図書資料とiPadをどのように使い分けたかを聞いたところ、次の3つの方法があった。

- ①自分で図書資料を選び、調べ学習を進め、更に深めたいと思ったことや図書資料だけでは分からなかったことについてiPadで調べる。
- ②図書資料やiPadで調べたことを書き込むなどし、iPadに情報を蓄積していく。
- ③調べるときは図書資料とiPadを使い、まとめはiPadのアプリケーションを使う。

全般的に、調べるときは図書資料中心で、まとめるときは、用紙とiPadを適宜使い分けるといった傾向が見られた。児童の調べやすさやまとめやすさを考慮してのことだと考えられる。

4 振り返り

昨年度末から、当校の児童の実態と図書館活用の実態を踏まえて、図書館活用推進の方向性と具体的な手立てを考えてきた。小規模校であるため、児童の実態が把握しやすく、また、各担任からの手立てに対する意見や実施してみた効果についての情報も得やすかったため、効果的な手立てとなるよう調整、改善しながら進めることができた。

今年度、様々な手立てを実践し、読書センター、学習センター、情報センターの各機能を向上させることができた。来年度以降も継続し、児童の実態や学習内容に合わせて、改善していくことができるとよい。